

被害防除対策の結果について

被害防除対策として、防除用格子網、音波忌避装置をそれぞれ別の定置網に装着した(図1)。

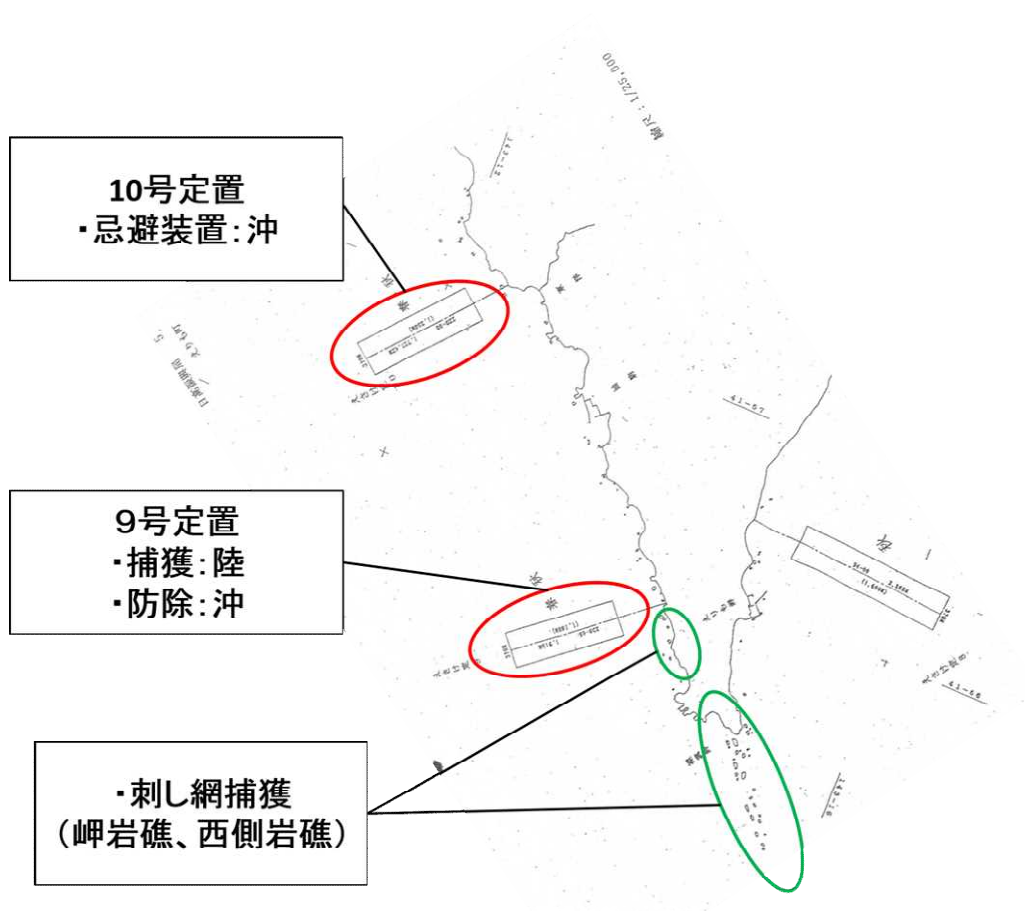


図1. 防除対策及び個体群管理の実施箇所

○防除用格子網の装着による被害防除について（値はすべて速報値）

春期の防除網装着による被害防除は、平成 28 年春期と同じ東洋地区（襟裳岬西側）の定置網 1 ヶ統（沖網）において実施した。防除網の形状はこれまで被害軽減が確認された 20×20 cm の格子状としたが、材質は色彩によるサケの忌避行動への影響が少なくなるよう、従来のダイニーマ製（白色）ではなく、ベクトラン製（金茶色）とした。

漁獲量自体が例年に比べ低い傾向にあった中で、比較的漁獲量が高い日に於いて被害割合は低く抑えられていた。漁獲量は格子網を付けている期間の方が高い結果となった。

（図 2）また、捕獲網（漏斗式格子網）を設置した同じ定置網の陸網と比較すると被害割合は低い値を示している（図 3）。

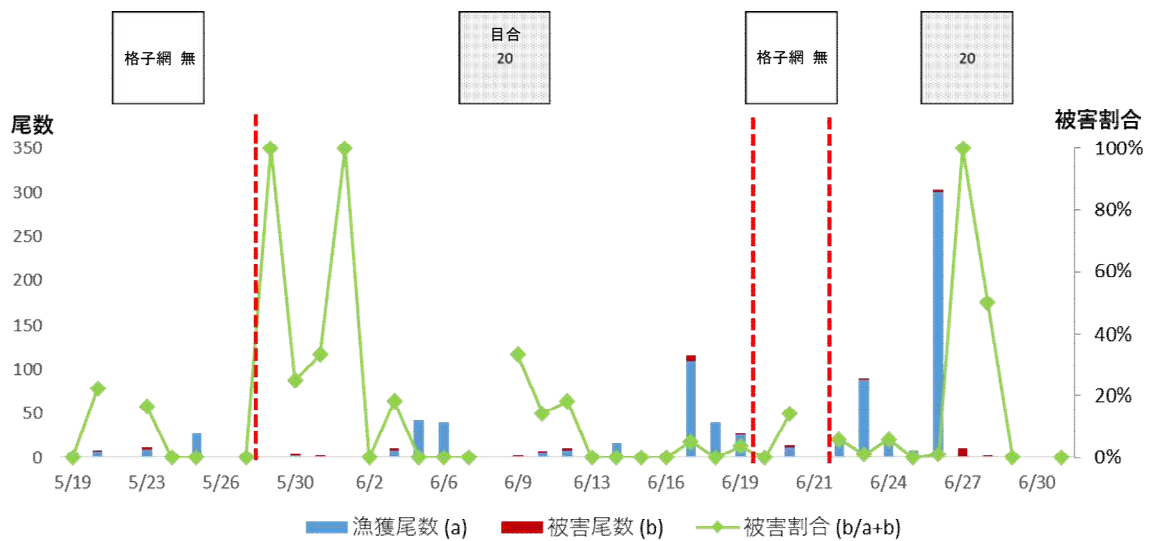


図 2. 防除網の設置状況と日別被害状況（東洋地区 沖網）

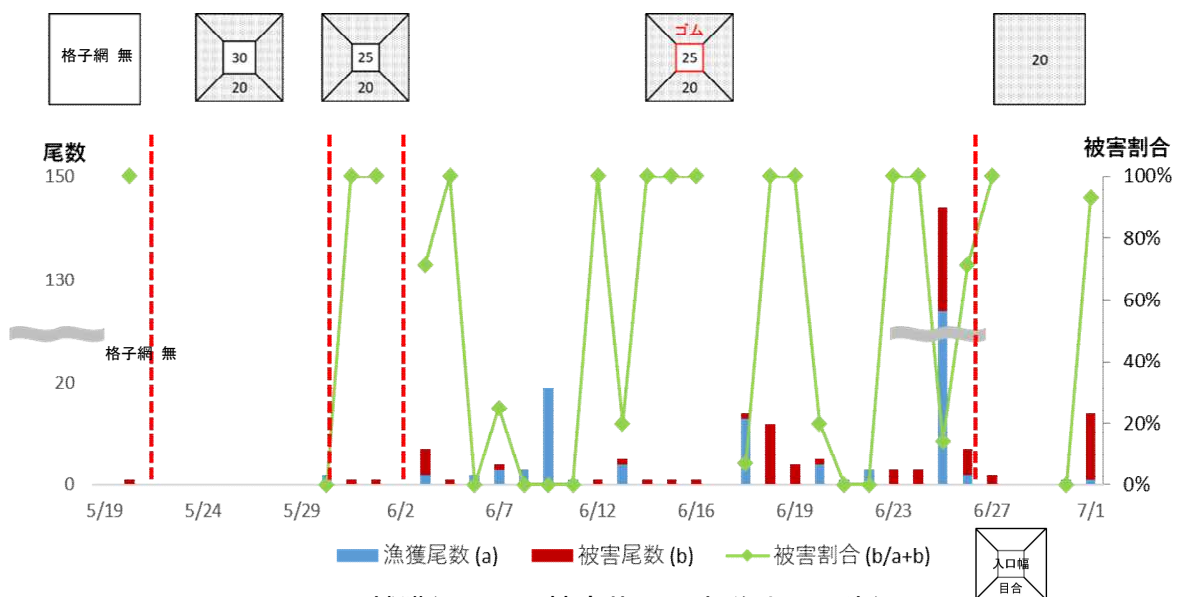
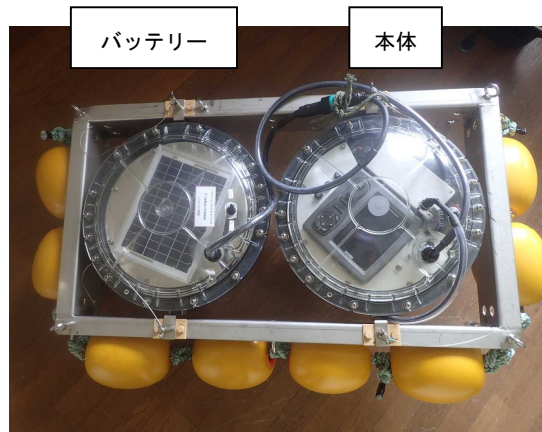


図 3. 捕獲網の日別被害状況（東洋地区 陸網）

○忌避装置の試験について（値はすべて速報値）

これまでの試験結果によりゼニガタアザラシへの忌避効果が確認された超音波を発する忌避装置について、形状等を改良したもの（写真）を、東洋地区の定置網（浮き網）において設置し、効果の検証を行った。



改良した忌避装置

結果、忌避装置を設置した期間は被害割合がほぼ0となり、設置していない期間と比較して顕著な被害の軽減が確認された（図4）。また、忌避装置を設置していない同時期の陸網（図5）と比較しても、被害が低減されていることが確認された。

ただし、1回目の忌避装置設置後、漏水による装置の故障があり修理を要したため、試験期間が短くなってしまった。また、修理時に機器の接続箇所等を補強したものの、2回目の設置後も故障が見られた。現状では海上での長期使用に耐えられないものとみられるため、秋期の試験に向け、今回使用した漁業者等からのヒアリングを行い更に改良を行う。

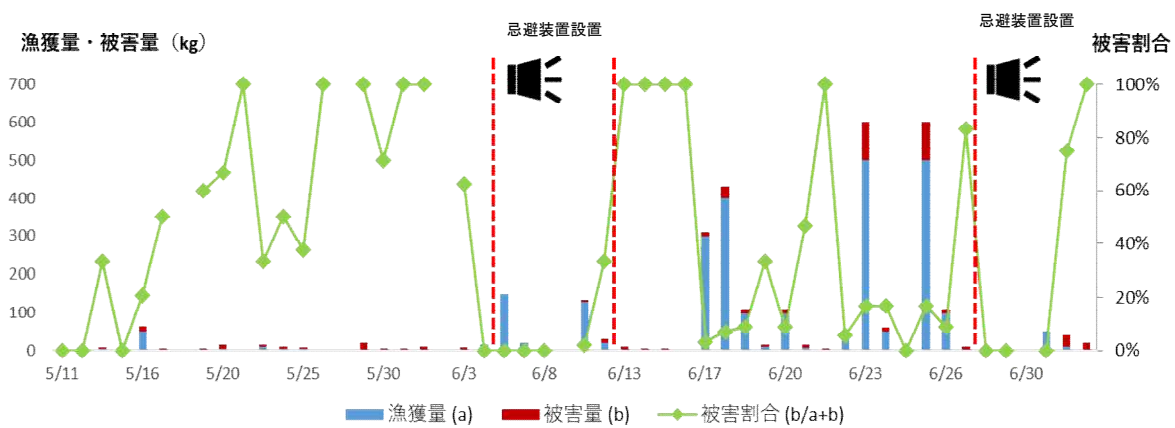


図4. 忌避装置の設置状況と日別被害状況（忌避装置を設置した定置網の沖網）

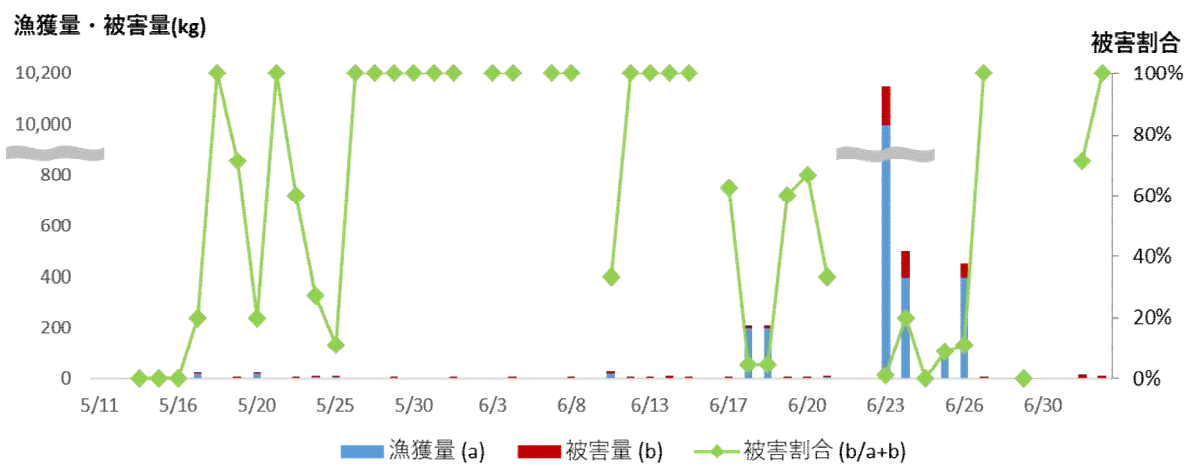


図5. 日別被害状況（忌避装置を設置していない同じ定置網の陸網）